

むすんで ひらいて

第60号
発行日
令和8年6月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧いただけます



「これからの地区社協活動」



福井市地区社協連絡協議会
会長 今富 廣子

緑が美しい季節となりましたが皆様におかれましては、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

超高齢化時代に向かって加速している今日、地域における福祉の必要性は多種多様化しており、地域福祉活動に携わる者として様々な対応を求められております。加えて活動仲間も高齢化等の様々な理由により増えにくい傾向にあり、若い世代の参画も図らなければならぬ状況にあります。

地区でも「役員の担い手を見つげづらい」等の声を多く耳にします。これは地区社協だけでなく、地域で活動するボランティア団体にも共通する問題であり、我が事として考えていかなければならないと思っております。

また、数十年前からのITの普及やコロナ禍以降の新たな交流スタイル、個人情報保護等の影響から、人間関係の希薄化や孤立化も進んでおります。

このような時だからこそ人と人との繋がりを大切に、思いやりの気持ちをもって優しいまちづくり、コミュニティづくり活動を皆様と一緒にしていきたいと思っております。2年間よろしくお願いたします。

地区社協連絡協議会 役員名簿

(任期) 令和8~9年度

(敬称略)

役職	選出区分 (ブロック名)	地区名	氏名
会長	全市	社西	今富 廣子
副会長	あたご	湊	梶本 重成
副会長	川西	大安寺	田安 敏男
理事	不死鳥	宝永	大黒 裕實
理事	みなみ	清明	山形 茂雄
理事	あずま	岡保	川村 直子
理事	九頭龍	中藤島	白崎 和子
理事	光	越廼	山本 正男
理事	足羽	酒生	前田 彦
監事	全市	東藤島	鍋島 正二
監事	全市	森田	三澤 高信

令和8年度 各地区社協会長の皆様

(令和8年6月1日現在)

(敬称略)

	地区名	会長名
あたご	木田	平 重道
	豊	中川 英治 ★
	足羽	筈田 信幸
不死鳥	湊	梶本 重成
	春山	山本 浩隆 ★
	宝永	大黒 裕實 ★
	順化	村田 眞一
	松本	黒川 俊枝
	日之出	毛利 茂則
	旭	重久 修造 ★
みなみ	日新	中川 忠洋
	清明	山形 茂雄 ★
	東安居	小鶴 敬司 ★
	社南	内田 佳次
あずま	社北	吉田 晴美
	社西	今富 廣子
	麻生津	辻森 直邦
	和田	清川 忠幸
九頭龍	円山	田嶋 里美 ★
	啓蒙	竹下 まゆみ ★
	岡保	川村 直子 ★
	東藤島	鍋島 正二 ★
	西藤島	手鹿 賢則
	中藤島	白崎 和子
	河合	橋本 正夫
	森田	三澤 高信
	明新	加賀 のぞみ
	光	安居
一光		竹田 法英
殿下		長谷 孝雄
越廼		山本 正男
清水西		野村 藤孝
清水東		鎌田 正弘
清水南		荒井 彦一
清水北		白崎 俊雄
大安寺		田安 敏男
国見		山本 一彦 ★
川西	鶺鴒	清川 清治
	棗	小林 務 ★
	鷹巣	丸山 喜美恵
足羽	本郷	杉本 武彦 ★
	宮ノ下	小西 安一
	酒生	前田 彦 ★
	一乗	朝倉 由美子
	上文殊	五十嵐 紀代美 ★
	文殊	乗川 重一
	六条	寺横 紀廣
東郷	前川 まゆみ	
美山	森田 守生 ★	

★は新任の会長

よろしくお願いたします!





日常生活の中の「小さな気づき」を
見守り活動へ！

「あなたのやさしさ発見ゲーム」で深める 見守り・支え合い活動

やさしさ発見 ゲームとは？

令和8年度より、福井市社協では地区社協向け福祉委員研修のプログラムの1つとして、対話と気づきを重視したワークショップ「あなたのやさしさ発見ゲーム」を行います。

少子高齢化社会が進む中、支え合い・助け合いの地域づくりのために、福祉委員活動をはじめとした見守り・支え合い活動への理解が必要不可欠です。しかし、令和7年度に福祉委員を対象として実施した、見守り活動アンケート結果では、「見守り方法がわかりづらい」、「見守りが必要な方が見つけづらい」といった意見が見受けられました。

そこで、ゲームを通して、地域住民のちょっとした変化に気づくポイントを学び、地域への関心を高め、福祉課題解決に向けて、地域の中でできることを考える機会につなげます。



内容

ワークショップ（グループワーク）形式で、1グループ3～4人前後で構成する。
・ゲームでは以下の3種類のカードを使用します。

① 住民カード（14枚）



住民像をシンプルにした短文カード

例) 高齢の男性
(子ども家族と同居)
高齢の親と子(成人)
の暮らし

② 気づきカード（43枚）



「日常の小さな変化」が書かれたカード

例) 服装が季節に合っていない
郵便物が溜まっている

③ アクションカード（21枚）



「できそうな行動」が書かれたカード

例) 普段から声掛けや世間話をする
民生委員・児童委員に相談する

流れ

- ① 住民カードを1枚選び、その人の暮らしを想像し、グループ内で共有する
- ② 気づきカードを3枚選び、起きているかもしれないことを話し合う
- ③ アクションカードから「自分にできそうなこと」を1～2枚選び、話し合う
- ④ 各グループ内で出た意見を全体に共有し、今後の見守り活動のために気づきを深める

地区での実践例（越廼地区）

越廼地区では、4月6日（月）に地区の民生委員・児童委員、福祉委員を対象とした合同研修の中で、「あなたのやさしさ発見ゲーム」を行いました。

当日は地区の福祉委員、計6名が参加され、1グループ3名に分かれ、選んだカードから考えられる状況、自分たちにできることについて、地区の特色を踏まえて話し合いました。

参加者からは、「普段の生活のなかにある“気づき”について改めて考える機会になった」「ゲームを通して、より地域に関心をもち、自分ごとのように感じた」などの感想が聞かれました。

見守り活動における小さな気づきについて改めて考える機会となりました。



皆さんの地区でもぜひ取り組んでみませんか？



問い合わせ先

福井市地区社協連絡協議会 事務局
(福井市社会福祉協議会 地域福祉課)

〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

世代間交流を通して、つながり合う地域づくりを!



東安居地区社協

手作り方言カルタで地域に愛着を



東安居地区社協では、令和8年3月26日に、いきいきシニア東安居、とまと児童館、東安居児童クラブの共催で、地域で使われている方言を用いた手づくりのカルタ遊びによる世代間交流を行いました。

子どもたちに方言を通じて、地域に関心を持ってもらうこと、地域への愛着を持ってもらうことを目的に、3つのプロセスで進められました。

1つ目は、夏休み期間に、方言にはどんなものがあるのか、どんな場面で使われるのか等について話し合うワークショップを行いました。
2つ目は、冬休み期間に、ワークショップで学んだ方言を用いた、カルタの「読み札」と「絵札」を計50種類作成しました。

3つ目が、手づくり方言カルタを用いた世代間交流です。子どもと大人混合の5〜6人のグループに分かれ、カルタ遊びを行い、世代間交流を深めました。

参加した子どもたちからは、「カルタ遊び中に分からない方言があったときに、教えてもらって勉強になった」「今回のカルタ遊びを通して、普段聞くことのない方言が、馴染みのあるものとなった」という感想が聞かれました。



カルタ遊びの様子



手づくり方言カルタ

制作に関わった東安居地区社協役員からは、「今回のカルタ遊びが子どもたちにとって、地域での楽しい思い出となるだけだけでなく、地域に関心を持ち続けるきっかけになってほしい」と想いを語られました。

湊地区社協

地域について世代を超えた学び合い

湊地区社協では、令和8年2月26日に、地区の民生委員・児童委員、福祉委員らを対象とした、合同研修会（※3回シリーズ・最終回）を開催しました。

第3回の研修会では、「いろいろな立場の方の生活を知り、みんなが過ごしやすい街を考える」というテーマで、湊小学校4年生による福祉に関する発表が行われました。この発表会は公民館で地域住民も参加して行われました。

研修会では、「ごみ分別」「暮らしの中の水」「自然災害について」の日常生活に関することや、クイズを交えた発表や、目・耳・足にハンディがある方の生活に関するすることで、クイズを交えた発表を聞きました。

子どもたちの発表の後、湊1区から4区の民生委員・児童委員、福祉委員で4つのグループに分かれ、意見交換会を行いました。子どもたちの発表について各グループからは「暮らしの中の仕組みについて、意外と知らないことが多く、改めて知る機会となった」「地域について熱心に探究されていて感心した」などの感想が聞かれました。

企画した湊地区社協役員からは、「子どもたちが地域に関心を持ち、意欲的に調べてくれたことが嬉しかった。子どもたちの関心に寄り添い、地域のために、今後子どもたちと一緒に福祉活動を勧めていきたい」と語られています。



合同研修会の様子



湊小4年生の寸劇

※第1回（7月5日）

「福祉活動の楽しさややりがい」

※第2回（9月27日）

「子供と一緒に取り組めるボランティア活動を考えよう」



社南地区

「高齢者と児童との交流事業」

社南地区では毎年、児童クラブを利用する児童と自治会型デイホーム（ふれあいサロン）の利用者との交流を行っています。令和7年8月5日（火）、社南公民館で開催のふれあい

サロンでは児童たちに人気がある「輪投げ」「射的」「金魚すくい」を会場いっぱいに設置して、児童たちの来場を迎えました。本年の児童は、つばき児童クラブの子どもたち（社南小学校2年生）です。

児童たちが来場するとすぐに、会場に広がる遊び場を見て全員から笑顔がこぼれます。迎えるサロン利用者たちも楽しそうにしている児童の様子に思わず笑顔があふれます。さっそくチームごとに分かれ遊び場を体験して行きます。高齢者は児童の元氣あふれる姿を肌で感じ、児童は高齢者をいたわりつつも同じ目線でゲームを楽しんでいました。高齢者と児童と一緒に笑顔いっぱい楽しんで姿を見て、私自身世代を超えた交流が人と

児童との交流の様子



輪投げ交流



射的交流

しての無限のつながりを作り上げるときかけになると感じました。児童も事前に準備した「けん玉」を使い、その遊び方やテクニックを披露し時間を忘れ楽しく過ごすごができました。最後に、全員でラジオ体操を行い本年の交流会を終了いたしました。これからも継続してこの事業を遂行しようと思いを強くしました。

社南地区社会福祉協議会

会長 内田 佳次

六条地区

「次代に向けた活動を」

六条地区は市の南部に位置する人口2千人、800世帯ほどの地区です。少子高齢化等による人口減少は不安に感じますが、地区外からの移住も多い地区です。変わりつつある住民構成に合った地区になるように、ご近所同士が声を掛け合って温かい地域づくりを目指しています。

六条地区社協が地域づくりのため

に次の2つを取り組んでいます。
1つ目は、自治会型デイホーム事業についてです。参加者を増やし、交流がより豊かなものになるように、地区内の高齢者施設への参加の呼びかけや、こども園の園児や地区の小学生を福祉学習の一環として招き、世代間交流を深めています。
2つ目は、公民館との共催事業です。主な取り組みとしては、公民館主催の「敬老事業」の館外研修等への参加の呼びかけを行ったり、ふれあいまつりに、車椅子専用の席を設け、地区内の高齢者施設利用者を招待しています。

また、毎年7月、日頃の見守り活動で出会ったこと、感じたことを語り合



自治会型デイホームでの世代間交流の様子

六条地区ふれあいまつりの様子



い、見守りマップに反映させる、「見守り支援活動研修会」を行っています。公民館全体を貸し切り、町内ごとの熱い会議が繰り広げられます。
また、地域活性化事業として、大学生、高校生を中心とした「ROKU-JOY」というグループが結成され、六条地区社協としても、高齢者の経験を伝授していくなど活動の支援を行っています。
この情熱とエネルギーでボランティアの皆さん、自治会長、民生委員、児童委員、福祉委員、保健衛生推進員の方々と協力して、今後も社会福祉活動を進めていこうと思えます。
六条地区社会福祉協議会
会長 寺横 紀廣